

令和7年度北本市立

学校 自己評価及び学校運営協議会評価書(まとめ)

			自己評価		外部評価		
評価項目	No.	観 点	A＋B ／全体 (%)	自己評価についての説明及び来年度に向けての改善策	自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ	学校の取組に関する評価と今後の改善点等
組織運営	1	自校は、学校教育目標の具現化に向けて、教育課程の編成、指導計画の作成等を工夫している。	100	○事故やトラブル等について マニュアルの作成等は十分だと感じる。トラブルがあった際、管理職に全て報告という現状だと勤務時間内の報告、または自分が残れる時間内での報告が難しい。忙しそう。ドアがあいていない。一言すら声掛けができる状況にないことが多い。翌日報告や校務分掌の主任にまず報告。必要なものだけ管理職への報告など組織を使った柔軟な対応をしてほしい。	A	A	・やはりあいさつや言葉遣いができていない子も目立ちますし、教職員のアンケートでも25%程度の方々が出来ていないと実感しているところだと思います。
	2	教職員は、PDCAサイクルのもと学級・学年経営や教科指導、校務分掌に工夫・改善しながらあたっている。	100	報告・連絡・相談を各主任の判断や責任のもとで進められるようにし、全体としてスムーズに動ける体制をつくることが望ましいと思う。また、ICTを効果的に活用することで、連絡や情報共有が簡単かつ迅速になり、業務全体の効率化にもつながると考える。	A	A	
	3	自校は、事故やトラブル等に対してのマニュアルを作成・掲示・活用し、組織的に、かつ迅速に対応している。	96	→管理職の机上に付箋や報告メモを置くようにする。ただし、緊急性が高いもの(ケガや病気等)については、校長室が閉まってもノックして報告する。	A	B	
	4	自校は、すべての教育活動を通じて、教職員の共通理解のもと、組織的に生徒指導にあたっている。	96		A	B	
基礎学力の徹底	5	児童生徒は、授業中、落ち着いた、学習内容を理解しようとする姿勢が見られる。	100	○家庭学習について 学校で統一した、自主学習などの取り組みをやってもいいと思います。 →学校で、すでに自主学習の取組は実施している。(学習の手引きに各学年の学習内容を提示している) 4年・・・宿題以外に＋αとして実施している。必須ではない。家庭学習50分(学年×10＋10分)ないで、取り組むように声をかけている。1／3の児童が実施している。	A	A	・北小の先生方は、とても元気で楽しい授業をされてると感じています。 大きな声で児童への声掛けをし、しっかりと目を見て授業をされている印象を受けます。 ・家庭学習モデル例を作成し配布したり、学年ごとの具体例を提示し、よくできている物は表彰や紹介をするのはどうか。 ・宿題が学校統一良いか否かは意見の様々別れるところです。学習習慣については中学生でもなかなか根付かず、本校の課題でもあります。しびれを切らせて親として塾にお願いする現実もあるようです。習慣を定着させることも小学校とともに考えていきたい。 ・家庭学習の習慣づけとして、我が家の子供達が小学生の時の例ですが、自主学習してきた児童は、翌日、小さな丸いシールを貰え、それを教室の後ろに掲げてある表の自分の欄に貼ってお友達と競ってました。とても楽しそうに自ら家庭学習やっていた気がします。
	6	教員は、学力の向上を目指し、児童生徒の実態に基づいて日々の授業改善に努めている。	100	5年・・・宿題＋α(60分)の中で実施。普段は、必須ではない。テスト勉強が多い。自主学習ノートに○ページチャレンジしようとして声をかけると全員が取り組み、内容もバラエティー豊富で、調べたいことを学習している。 6年・・・1週間て1回最低3ページ取り組むように声をかけている。個々のペースで(いつ取り組むかは自分で計画し、どのくらいの量をやるかも各自で決めている。)最近は、テスト勉強が多い。	A	A	
	7	基礎学力の定着や授業規律の徹底など、教職員の共通理解のもと学習指導にあたっている。	100		A	A	
	8	教職員は、児童生徒に家庭学習を定着させるために、家庭に積極的に働きかけるなど工夫している。	96		A	B	
規律ある態度の育成	9	児童生徒は、友達や教職員・来校者に進んであいさつができる。	79	○あいさつについて 児童から教職員に対して進んであいさつできる児童とできない児童の差がある。まずは教職員が進んで挨拶すること、そして、なぜあいさつをするのかを児童に考えさせることも必要であると考える。 あいさつが返ってこない。教員から進んであいさつし、返ってこない場合も粘り強く声を掛ける。 自分からあいさつができている児童が少ない。こちらがあいさつをしても返してくれない児童がいるのは悲しい。あいさつの声も元気がない子が多い。もっとあいさつを全校の取り組みにしてもよいとおもう。 すぐにできること、身に付きづらいことがある実態ですが根気よく繰り返しやっていきます。 →1年間の生活目標」という枠を作り、「今月の生活目標」に加え、帯で指導する。 全校朝会の退出時にあいさつ運動を行う。「あいさつポイント」をつくり、毎月累積する。 ソーシャルスキルトレーニングの導入。	B	B	・教職員が進んで大きな声で明るく声かけしよう。 ・挨拶は、今の個々の心の状態を表すものであり、望ましく心地よい人間関係構築のためのあいさつ励行を今後も継続させたい。あいさつ＋ワンアクション(手を挙げるなど)をやってみるのも一つかと・・・ ・資料の自己評価では、あまりできていないが4分の1をしめてますが、私個人としては、概ねできていると感じます。 反面、こちらから挨拶をしても挨拶を返せない児童も時々見受けられます。 学校生活だけではなく、家庭の中での挨拶の習慣づけを引き続きお願いすると思うます。 ・正しい言葉遣いを、その場ですぐ指導することが大切。発達段階が6年間あるというのは、先生方のご苦労も察しいたします。 ・やはりあいさつや言葉遣いができていない子も目立ちますし、教職員のアンケートでも25%程度の方々が出来ていないと実感しているところだと思います。
	10	児童生徒は、各学年の発達段階に応じた場に応じた正しい言葉遣いができる。	79		A	B	
	11	児童生徒は、お互いのよさや努力等を認め合って学校生活を送っている。	100	○言葉遣いについて 各学年の発達段階に応じた場に応じた正しい言葉遣いができるか、というところだろうか。担任の考えや意識によって、指導の水準は大きく異なる。低学年でもできることはある。高学年ができていないとおかしい。小さい頃からの積み重ねが大切なので、学年で、最低限のところは、揃えたほうが良いと思う。 挨拶や言葉遣いにおいては課題を感じる。進んで挨拶をする児童は少なく、こちらがしても返って来ないこともある。また、教師に対しても友達のような話し方をする児童も多い。繰り返し指導や教職員の共通理解を図り全体で指導が必要だと感じる。	A	A	
	12	教職員は、すべての教育活動を通じて、児童生徒に対して規範意識を高める指導を行っている。	100	先生によって態度を変えたり、話し方を変えたりする児童が見られる。 →学年に応じて、どこまで敬語を使えるようにするか、1年生のうちから指導していく。 敬語の掲示物を貼る。	A	A	
健康・体力	13	児童生徒は、体力の向上に向け、学校生活全般で運動や体づくりに意欲的に取り組んでいる。	83	○体力の向上に向けてについ 学年ごと「何曜日、この休み時間には全員外に出て遊ぶ」のような約束をつくるのはいかがでしょうか。もしくは6年生のようにマラソンの習慣をつける取組があってもよいと思います(マラソンカードなどを期間を設けて取り組み、全校の前で表彰するなど)。 体力の向上に向け、学校生活全般で運動や体づくりに意欲的に取り組んでいる児童と、そうでない児童がいる。特になかよしタイムと昼休みに教室にいる児童は決まっており、体力は落ちていていると思う。1日1度は、外に出られる日は出て遊ぶこととしたほうがいいのかと思う。 体育の時間以外の運動量が少ないと思います。全校おにごっこなどは、有効ですが、普段から体力向上ができるなにか取組があるとよいと思いました。 持久走学習期間は、休み時間にも走る時間を設け、積み上げマラソンカードなどを実施してもよいと思う。全校鬼ごっこ大会はいい取り組みなので、年に1回だけではもったいない。全力縄跳び大会(持久とび、二十とび)も今年も開催してほしいし、全力大縄大会もあってもいいと思う。週に1回は全員が外に出る休み時間を設けてもいいのでは。ただでさえ夏場に外に出られず、運動機会が減っているため児童が進んで運動に取り組めるイベントが多くなるといい。 →休み時間は外に出ることを統一する。(年度当初に全学年で統一する。) 逆上がり教室などの、運動教室を実施する。 全力シリーズは来年度も継続して行う。 持久走学習の時期に合わせて、なかよしタイムを利用しマラソンカード等を活用し積み上げマラソンを行う。	B	B	・時間を有効利用し、ともかく体を動かす方法をさぐる。 ・遊具の種類が市内の他の学校と比べて少なく感じる。外で体を動かすきっかけになると思います。 ・ぜひ「運動を好きにさせる」ことを様々な場面でよろしくお願ひいたします
	14	自校は、児童生徒の健康及び安全についての意識を高めようと努力している。	100		A	A	
保護者・地域・異校種間連携	15	自校の教職員は、PTA活動や地域活動等に積極的に協力している。	92	○PTA活動について 保護者・地域との連携は、できているとはいいがたい。互いの負担ができるだけ少ないが、連携できている達成感がある取組があるとよいと思います。3校合同避難訓練は、今年度はじめての取組でしたが、連携という意味で、よい取組だと思いました。	B	B	・発信した内容が、きちんと受け止められているか時々確認することが大切。 何でも教職員でやりきろうとせず、保護者や、近隣の方の協力を得るようにする。 ・以前は、わんわんパトロールのたすき掛けしてる方が多数いらっしゃいましたが、今は見掛ける事が無くなりました。 わんわんパトロールや110番の家を地域の方に発信し再度強化するのも1つの案だと思います。 ・10数年前、『不審者パトロール』と書いた紙をラミネートし、全世帯に配布、自転車カゴにつけてもらいました。
	16	自校は、各種たよりやホームページ等で、教育活動の様子や成果・課題等について情報提供している。	100	PTAがどんな活動をしているのか知らないため、活動内容を知る方法があるとよい。 →4月に行われるPTA総会や総会資料でPTA活動について確認する。	B	B	
	17	自校は、保護者や地域と連携し不審者対策のパトロールや声かけ運動などの計画を立てて定期的の実施している。	87	○不審者対策について 勤務時間内でパトロール等を行うのは難しいので、業務優先で、仕方ないと思う。 下校時の見守りを教職員も行っていったほうがよい。 →勤務時間内に下校指導を行えるように、日程等を工夫して年度当初に計画する。	B	B	
	18	自校は、異校種間(幼保小、中高等)の連携を積極的に推進している。	100		A	A	
令和7年度指導の重点(方針1：豊かな心をはぐくむ教育の推進)	1	教職員は、道德授業の充実を図っている。(自分と他人を大切にすることの醸成)	100	○あいさつについて 教職員自身があいさつできていない場面もある。また、あいさつができていないことを見逃してしまう場面もある。あいさつ週間などを計画するといよ。 →児童会や学級等・子供たち発信で「あいさつに関わる活動」を行う。 年度初めの懇談会で、管理職から放送等で保護者に挨拶の重要性を伝える。学校と過程で協力して習慣化させる。	A	A	・共通項目9の回答と呼応する回答ではないか、大人から発する言葉、大人の取る行動を子どもたちは模範とするのではないか、指導＝子供たちの反応であることを前提に対応していかなければならない。(最近の中学生はこの傾向がさらに強いです) ・熱帯からコミュニケーションをとりながら清掃・・・本校でも指導の軸を調整中
	2	教職員は、児童へ気持ちを届ける挨拶の励行を行っている。	96	○言葉遣いについて 中には教員によって話し方を変える児童もいる。教員全員での指導が必要に感じる。 10、11月など、児童との生活に慣れてきたときに、言葉遣いを正すことが曖昧になってしまうので意識付けしたい。 言葉遣いに関して、どうしてよくないのか、どの言葉はよくないのかななどを明確に指導できていない。どんな場面でどういった言葉遣いが望ましいのか教職員内で共有するといよ。 →年度初めに共通理解を図る。どの学年に対しても、職員全体で一貫した指導を行う。	A	B	
	3	教職員は、言葉遣いに関する児童を徹底している。	87		A	B	
	4	教職員は、清掃指導の徹底(清掃方法、反省会の統一)を行っている。	74	○清掃指導について 日課の変更に伴い、時間が10分しかないこと、清掃がない日があることから、校舎全体の汚れが目立つ。日課が変更になったばかりだが、もう一度見直してもよいと思う。もしくは、月に一度でもいいので、清掃強化日として昼休みから清掃の時間まで長時間の清掃ができる時間を確保するといよ。 本年度は、掃除時間が短くなったため、反省会ができなかった。徹底させるのであれば、曜日と時間を決めて、校内放送で一斉に行うと良い。	B	B	
	5	教職員は、生徒指導・教育相談体制の充実(共通理解の徹底)を図っている。	100	清掃時間が10分では、反省会までしっかりと行えないと思いました。清掃開始時刻には、清掃場所にいて、10分間しっかりと清掃しないと、すみずみがぼこりが残っていると感じました。朝清掃は、暑さの厳しい時期は、有効でした。週に1度でもいいので、15分清掃の時間があるとよいと思います。 清掃ルールの全校での徹底が不十分のかなと思います。掃除中のおしゃべりが多いのがどうしても気になり、クラスや学年の子にはしゃべらず掃除をすることを呼び掛けていますが、個人的には「無言清掃」で全校共通ルールを図ってもいいのかなと思います。そのほうが教師側の指導にも説得力が出て助かります。	A	A	
	6	教職員は、hyper-QU調査を活用した居場所・充実感のある学級づくりを行っている。	100	→週に一日は15分間の清掃時間を確保できるようにする。 移動時間を考えて清掃場所を割り振り、実質清掃する時間を増やす。 学校のルールと掲示物の柵瀬、小さな音楽を流すなどして「無言清掃」を学校全体として取り組む。	A	B	
	7	教職員は、スマイル学級児童と通常学級児童の交流学習の充実を図っている。	92	○交流学級について 交流のスムーズな進行を促すために事前の確認や子供たちの実態の伝達、目標などがおろそかになってしまっていた。実態を理解してきているので今後は行事等の前や活動の前に適宜伝えられるようにしていく。 →事前に子供たちの実態や目標を伝える。	A	A	
令和7年度指導の重点(方針2：確かな学力を培う学習指導の充実)	8	教職員は、学習規律の確立(授業準備、姿勢、声量、返事、言葉遣い等)を行っている。	96	○エビデンスにもとづく指導方法の工夫改善について 実質上テスト等を行っていないこと、学習状況調査も知的学級のため活かせる結果が得られていないので、子供たちへの指導への反映ができていない。しかし子供たちの実態を考慮し、それぞれに合った学習活動や授業形態を用意している。【スマイル学級】 →スマイル学級の児童は、学んでいない内容の調査問題は、解答できないこともある。テストを受ける経験を積むというために、県学調は、受けている。 特別支援学級では、個別の指導計画を毎年立てているので、それを活用し、必ず、年度末には、どんな取組をし、どのような成果があったのか実態を記入し、次年度へ継続していけるようにするといよ。また、学期ごとに、通知表を付けているが、次学期に向けて、どんな対策をとるとよいか、係る教職員が話し合っていくといよ。(支援会議で話し合う)	A	A	・ぜひ今後も、不正解を活かすこと、失敗しても前を向いて進ませる後押しを継続してください
	9	教職員は、思考力・判断力・表現力を高める指導方法の工夫(協働的な学びの充実)を行っている。	100		B	A	
	10	教職員は、「正解」ではなく「自ら考えを」発表し合う授業を行っている。	100		A	A	
	11	教職員は、エビデンス(アンケート、各種学力・学習調査等)に基づく指導方法の工夫改善を図っている。	96		A	A	
	12	教職員は、学力向上対策としての北小タイムの活用を行っている。	100		A	A	
	13	教職員は、家庭学習に係る取組の充実(「手引き」活用と「振り返り週間」の実施)を図っている。	100		B	A	

令和7年度健康増進・安全重点教へ育の方針3進：～体力	14	教職員は、運動の特性や魅力を味わわせる体育授業の充実を図っている。	100	〇体向上対策としての北小タイムの活用について 体向上上の北小タイムの回数が少ないので、仕方がない。回数を増やさない限り体向上上には繋がらない。 北小タイムが水泳の時間と重なってしまうことが懸念。年間行事予定の見直しをする。 →火曜日の8日課で課会がないときに北小タイム(体力)を入れることで、時間を確保する。 北小タイムが金曜日にできないときは、火曜日に行く。	A	A	・北小タイムのようなフレックスな時間帯は子どもが自由発想、考えて判断して動く時間帯なので今後も時間確保してほしいと思う削られる可能性も高いので・・・ ・質問ですが、安全点検は校舎内だけではなく外壁や倉庫、枯木など校舎外も行なっていますか。		
	15	教職員は、体向上対策としての北小タイムの活用を行っている。	87		A	B			
	16	教職員は、防災意識を高める避難訓練の工夫(実効性のあるマニュアルと応用)を行っている。	100		B	B			
	17	教職員は、命を守る自助の力を高める安全教育(閉門扉・一時停止・パッドサビ)を行っている。	100		A	A			
	18	教職員は、定期、臨時の安全点検の実施(多面的・多角的な視点)を行っている。	100		A	B			
令和7年度指導の重点(方針4：教職員集団としてのチーム力の向上)	19	教職員は、「報・連・相」の徹底を行い、本校は、組織で対応する体制の整備を行っている。	74	〇報・連・相の徹底について 学年で、情報共有をさらにしていくべきと感じました。 校務分掌や主任等をうまく活用。組織というより管理職と担任という現状がします。 「報告」について、管理職の先生方にすぐに報告したいことがあっても、扉が開いていなかったり、忙しそうにしていたり、なかなか報告できずにいるときがあります。学年間で対処できることなのか、精選して柔軟に動くべきだと思います。 「報告・相談」をすると嫌な顔をされるため、相談しにくい。 指示を仰ぎ、その通りに動いたのにもかかわらず指導をされた。 →学年会を定期的に実施する必要がある。 →学年会で、学習の進捗状況や生徒指導対応など、共有すべきことがある。 →学年会の計画的な実施について配布(令和5年に共有した内容を改訂する) →管理職の机の上に付箋や報告メモを置くようにする。ただし、緊急性が高いもの(ケガや病気等)については、校長室が閉まってもノックして報告する。【再掲】	B	B	「報道相がしやすい環境とは？」先生方で考えてそれを研修としてはいかがでしょうか。年齢問わず発言する場を設けて、お互いの立場・状況・気持ちを知る事が改善につながるとよいです。 ・「今相談できるよ」という空気づくりが大事だと思います。 ・組織で対応ならば、生徒指導主任、教育相談主任にはその日のうちに、情報の共有できるシステムを整える必要がある。 ・報・連・相・見届けの『C』が約4分の1。ここは早急に改善して頂きたい点だと思います。限られた時間での変更は、容易な事ではないでしょうが……。 ・学校単位でできるか難しい問題です。対「人」の仕事は時間が読めない事が多いため、それ以外の部分に業務の簡略化や効率的にできる方法を取り入れてみてはいかがでしょうか。 ・感情的？ 担任手当導入により職員作業の設定が難しくなりますね ・働き方改革は、どの職種においても難しい問題です。 資料内の教職員の方々の意見、とても良いと思います。 ・職員の意見はどんなことであれ、まずは受け止め、一緒に考えようとする対応が大切。 ・事故〇については、職員全員が目指す項目であってほしい。 校長発信のメッセージを数人の先生にはもう一度再確認をしたほうがよい		
	20	本校は、学校課題研究に対する組織的な取組みを行っている。	100	〇互いに尊敬し、ともに高め合える職場づくりについて 児童に呼称のあり方を指導する立場として、職員間においても、年齢・性別・勤務歴・職位などに関わらず、互いを尊重した呼称を意識していきたい。学校全体で、相手を思いやり、敬意をもって接する雰囲気育てていけると良いと考える。 児童に「～さん」と呼ぶように指導しているので、職員同士も勤務歴や立場に関わらず、相手を敬う呼称を心がけるべきだと思います。 自分の意見や考えを言う、と否定される。 一言差の違いの難しさを感じる。相手を理解するための交流は、必要である。 「～さん」「～先生」と呼ぶ。	A	A			
	21	教職員は、互いに尊敬し、ともに高めあえる職場づくりを行っている。	92	〇ライフステージに応じた研修機会について ライフステージに応じた研修は行われていないので、若年者研修のようなものがあるのもよいかと思いますが、そんな時間はないように思います。もしやるのであれば、職集の時間や研修の時間を使うしかないかなと思います。 →ライフステージに応じた研修は、県の研修を自分で申し込みをするとい。 互いが授業を見合う機会が本年度あってよかった。それも研修だと思う。	B	A			
	22	本校は、ライフステージに応じた研修機会の設定を行っている。	87	〇働き方改革について 「学校における働き方改革」の本質に迫った業務改善の実施は、各自が努力しているが、学校全体の取り組みとしては、特に行っていないかった。人によって業務の偏りがあったり、家庭生活の事情が違ったり、体調不良を抱えていたり様々な職員がいる。それを支え合っているチームなので、みんなが幸せになれるように改善できれば、と思う。ストレスを抱える職員も多くなるので、気持ちを支え合いながら仕事をしたい。 年度当初の学級経営案などは、市内でも自己評価シートと一緒にしている学校もあり。行っていないところもあります。一緒にしても良いものなら減らしてもらえたと業務の軽減になると思います。 年次有給休暇の取得に関して、感情的・慣習的な対応を求められる場面や事由説明を求められることがある。プライベートなことや家族関係で言いづらいこともあるため聞かれたくない。 働き方改革、とても難しい問題だと思います。まず管理職の先生方が今年はとても忙しそうで、大丈夫かなと心配しています。こちらも業務のスマート化のために、上にあげるべきこと、学年や部会で対処すべきことなど拾捨選択して柔軟に動いていかなければいけないのかなと感じています。 年次有給休暇や子育て休暇などの取得について、感情的・慣習的な対応ではなく、制度に基づいた公正で透明な運用が望ましい。誰もが安心して制度を活用できる環境を整えることで、より働きやすい職場づくりにつながると考える。 「時間を守る姿勢」を児童に指導する立場として、会議や集会においても必要な時間や目標を明確にし、効率的な運営を意識できるとより良いと感じる。 時間を守ることを児童に指導する立場として、集会も時間を守る必要があると思いました。どれだけ急いで準備しても、火曜日1時間目の体育の学習時間が確保れず、困っています。 「子供も大人もみんなが幸せになれる学校」という学校像については、教職員の家族もその「幸せ」に含まれるとこれまで理解してきた。今年度は、その理念のもとでどのような幸せを目指しているのか、具体的な方向性を共有していただけたこととありがたい。教職員が働き甲斐を感じることで、結果的にチーム力の向上にもつながると考える。学校ホームページにも昨年度と同様に理念が掲げられているため、形だけでなく実質的に浸透させ、今年度ならではの視点を加えて発信できると良いと考える。 学期末は成績処理の効率化のため、放課後に研修や職員作業等の予定を無くしていただきたい。 夏季休業中の1週間に詰まった研修計画がよい。 放課後に急な会議や職集が入り、自分の仕事ができない。 一学級経営案の提出は、毎年市教委へ提出する教育課程の一覧に載っているものである。 実施していない学校は、どうしているのだろうか。市内で統一したらよいのではないかと。自己評価シートは、学年経営や学級経営とは異なる。同じ学年で共有すべき内容が、学年経営案ではないかと。(自己評価シートは、他の職員は、確認できない内容である。) 学年会、部会を定期的に実施していくことは、各主任が設定していくべき内容である。 全校朝会は、時間内でおさまるようにしたい。8:20～8:35(15分間) 教務用務の期間は、学期初めにわかると、仕事を組む予定が立てやすい。研修の時間は、年間行事計画で立てているもので、教務用務の期間が後から設定されたもの。研修があっても仕方がないのではないかと。	B	B			
	23	本校は、教育技術や思いを若手に引き継ぐ体制の整備(授業公開週間の実施)を行っている。	92		B	B			
	24	本校は「学校における働き方改革」の本質に迫った業務改善の実施を行っている。	74		B	B			
	25	本校は、「教職員事故0」を継続するための取組をしている。	92		B	A			
令和7年度地域連携・連携推進の重点	26	本校は、「小中一貫教育」を基盤とした教育活動の推進を行っている。	100	〇PTA執行部との連携について PTA執行部との連携をほとんど教頭先生や、市川先生にお任せしてしまっているので、申し訳ないです。 PTAがどんな活動をしているのか知らないため、活動内容を知る方法があるとよい。 →引き続き側溝そうじや運動会校歌演奏の声かけをしていく。 →全力大会に保護者チームとして参加してもらう。	A	A	・お疲れさまでした。 ・PTA執行部との連携を取っていることの内容を簡単でもいいのでそのつど職員に連絡する。 ・昔行われていたお茶会など、交流の場を作ってはどうか。		
	27	本校は、PTA執行部との連携を図っている。	96	〇幼保小連携について 幼保小連携のためのプログラムを令和7年度に作成予定であったが、できていない現状です。 1学期のうちに、近隣の幼稚園や保育園の先生方に1年生のようすを見ていただく機会や、簡単な交流の場があると良いと思う。入学前後のつながりを大切に、地域の園との関係を深めることで、新入生の安心感や学校生活へのスムーズな適応にもつながると考える。 →「幼保小連携のためのプログラム」については、来年度作成予定である。 近隣の幼保を北小まつり等の行事に参加させる。幼保の先生に参観に来てもらう。	A	B			
	28	本校は、課題解決に向けた関係機関(SC、SSW、市役所など)との連携を図っている。	100		B	B			
	29	本校は、幼保小連携を行っている。	87		B	B			
来年度の重点目標(共通項目・学校独自項目の評価結果を踏まえて)					校運営協議会の総評				
全教職員が同じベクトルの元、あいさつや言葉遣いについて今年度共有し指導していくと共に、児童との共有も全体の場で行う。また、児童から発信した「あいさつ運動」や「言葉遣い週間」を企画していく。 清掃週間等を設け、学校美化に取り組む。 学年会等が行われる時間を確実に確保する。 包括的な組織運営づくりと共に、ミドルリーダーの育成を通して若手の教員を育成していく。 スムーズな報・連・相の体制を構築する。 校務分掌等の組織の工夫や行事内容や時期等の再精選を行い、更なる働き方改革に取り組んでいく。 教務と担任との情報共有がさらに密になるように声かけや働き掛けをし、自習の内容がさらに精査するように指導することで、補充に行きやすい環境を整える。 幼保小連携の校務分掌を組織し、近隣の幼保との連携を図る。					・先生方は多くの業務をこなす中で、お子さん達に本当に一生懸命に接してくださっています。 本来、先生方は教育だけに集中できるよう、学校として教えるのは、難しい部分(挨拶や常識など)は各家庭に協力をお願いしてみてもいいのではないかと、感じます。 ・本来、家庭と学校が連携して子どもを育てるので、どちらかだけに負担が多いのは改善できればよいと感じました。 →家庭ごとに差があっても先生方の負担軽減になるのではないかと考えます。 ・授業の姿を見るだけで、先生方がとてもよく指導されているのがわかりますので、細かい改善点を見直されていけば、よりよい学校運営になると感じました。 ・学校運営全般を通してきめ細やかな計画、実施により非常に良好な運営ができていのように感じます。授業中の教師の様子や、児童の様子からも非常に関係がよく、児童は安心してリラックスした状態で授業を受けています。 先生方の努力がそれをつくっていることを伝え自信を持ってもらうことが大事。学校運営が良好に行われているのに、忙しさにストレスを感じる教師が少数いる。仲間関係で解決できるように助言を。 ・協議を通して、学校が目指す教育目標の実現に向け、教職員の皆様が日々工夫と努力を重ねておられることがよく伝わってきました。今後も、子どもたちの健やかな成長を共通の目標として、学校・家庭・地域がそれぞれ立場で責任を果たしながら、協働体制をより一層充実させていくことを期待します。 ・次年度の計画案作成に向けて、更なるR8年度をご期待申し上げます。 ・教職員の皆さまの日々のご努力に頭の下がる思いです。本来家庭で行うべき教育がなされず、学校側の負担になっている場合もあると感じます。更に良い学校運営を推進される事を期待しております。 ・資料の中の教職員さんの意見の中には厳しいものもありますが、とてもやる気のある積極性も感じられます。 ・個々、それぞれの考え方があるので、対立する事もあると思いますが、良い雰囲気だと感じております。引き続き、宜しくお願い致します。				

北本市立	学校	学校運営協議会(敬称略)	外部評価実施日
会長 清水 宏典			第1回 令和 7年 5月 14日(水)
委員 菅野 由香	委員	野本 慶人	第2回 令和 8年 1月 30日(金)
委員 大保木道子	委員	内田 浩子	第3回 令和 8年 2月 24日(火)
委員 板垣 修司	委員	磯部 元孝	
委員 駒井 主水	委員		
委員 小平あゆみ			